



携帯からも卒業おめでとう

西原高等学校の卒業式が、3月1日に同校体育館で行われました。

式終了後は、花束のプレゼントや紙ふぶきの舞う、いつもの光景が見られましたが、花道で卒業生に携帯電話から「卒業おめでとう」と電話が入り、涙ぐむ姿は今時の高校生ならではの光景かもしれませんね。

さあ、それぞれの新しい旅立ちの時です。

主な目次

平成13年度町施政方針	2～12頁
町助役再任他	13頁
まちの話題	14～15頁
町行政の動き他	16～17頁
介護保険について	18～21頁
お知らせ	22～25頁
生涯学習だより	26～27頁

町の世帯・人口（平成13年2月末現在）

世帯数	11,107世帯	(+8)
人口	32,481人	(+17)
男	16,516人	(+11)
女	15,965人	(+6)

平成13年度 施政方針

新たな夢と希望を託す ―新世紀への第一歩―

図書館建設、M・T・P事業の推進に努力

三月九日の平成十三年第二回西原町議会定例会で、翁長町長が述べた平成十三年度の施政方針は次のとおりです。

はじめに

輝かしい二十一世紀が幕を開け、本日ここに平成十三年第二回西原町議会の定例会開会にあたり、今議会でご審議していただく平成十三年度予算をはじめ諸議案の説明に先立ち、町政運営の基本姿勢と主要施策の概要を申し上げ、議員各位並びに町民の皆様にご理解とご協力をお願いしたいと思います。



施政方針を述べる翁長正貞町長

なお、平成十二年度の町政運営については、厳しい経済環境ながら全体として順調に執行することができまして心から感謝申し上げます。

さて、私はこれまで「文教のまち西原」建設のため、町政運営に当たっては、平和憲法の理念に基づき、護憲・反戦平和を基調として、

- 一・平和憲法を守り、反戦・平和、国際交流のまちづくり
- 二・新世紀に向けて、真の地方分権にふさわしい町民対話、町民参画型のまちづくり
- 三・計画的な町政運営により、人かがやき 自然ゆたか 文化かおるまちづくり

を基本姿勢に町政運営に努めてきました。二期目を迎えました今年度も引き続き、この基本姿勢を堅

持し、決意を新たに町政運営に当たっていく考えであります。

私たちは激動の二十世紀に別れを告げ、今までと違った新たな夢と希望を託す新世紀への第一歩を踏み出しました。しかし、国際社会においては、東西冷戦後の民族・宗教等に絡む地域紛争や地球温暖化問題、新たな国際経済システムの構築等、国家間が鋭く対立し依然として厳しい状態が続いております。

国内においては、終戦から半世紀が経過する中で、ガイドライン関連法や国旗国歌法の制定、米軍用地特別措置法の改正、さらに憲法改正問題等、ますます危険な動きが強まり去る大戦の悲惨さが忘れ去られようとしております。

また、国際化、情報化、少子・高齢化の進展の中で、グローバルスタンダードの進展等による金融・証券改革、産業構造の転換、地方

- に伴なう家電4品目の有料化
- (3) リサイクル基金設置
- (4) 生ごみ処理機購入補助

産業振興については、

- (1) 農業問題懇話会の継続
- (2) 経営構造対策事業の推進
- (3) 高齢者ビジョン推進
- (4) 情報通信事業の振興
- (5) 水産業拠点強化(構造改善)事業の計画
- (6) 小橋川地区農地保全事業
- (7) 安室地区基盤整備促進事業の推進

道路網・排水整備については、

- (1) 工業専用地域の道路整備事業(小那覇8号線)
- (2) 小那覇・マリントウン線改良工事
- (3) 我謝・マリントウン線(仮称)・東崎線(仮称) 予備設計
- (4) 翁長・上原線改良工事
- (5) 小波津・与那城線道路整備工事
- (6) 小橋川4号線道路整備工事
- (7) 小波津川河川整備促進
- (8) 排水路整備事業
- (9) 土砂災害情報相互通報システム
- (10) 防災カルテ作成

都市基盤整備につきましては、

- (1) 運動公園整備事業(西原運

分権や市町村合併等、これまでの経済社会システムの見直しが迫られる大変革の時代を迎える一方、未曾有の長期不況が続き、先行き不透明な極めて厳しい経済運営になるなど大きな岐路に立たされております。

県内においては、米軍基地の整理縮小や普天間基地・那覇軍港移設問題、航空交通に関する日米合意の見直し問題、自由貿易地域指定等の問題が山積する中で、沖縄経済振興二十一世紀プラン等に基づく経済の自立と雇用の安定をめざしているものの、厳しい経済情勢の下で、県を含めた市町村の財政状況は一段と厳しさを増しております。

本町の平成十三年度一般会計予算は、歳入において町税や、地方特例交付金、国庫支出金、諸収入、町債等の伸び、歳出においては、衛生費や土木費、教育費の普通建設事業等の伸びにより、予算総額は対前年比三・七％増となりました。

町民サービスの向上、開かれた町政、計画行政に向けては、

- (1) 地方分権の推進
- (2) 情報公開の推進
- (3) 事務電算化(住民基本台帳、

- 動公園のパークゴルフ場駐車場等整備、テニスコートエリアの造成等)
- (2) 東崎公園整備
- (3) マリン・タウン・プロジェクト(町村土地開発公社による商業用地及び水辺広場用地の先行取得)
- (4) 上水道事業(東崎地内等配水管新設改良工事)
- (5) 公共下水道事業(美咲・我謝・与那城・平園・兼久処理分区整備工事)
- (6) 土地区画整理事業(上原、棚原地区早期完了・西地区の推進)

交通安全施設整備に向けては、

- (1) 翁長・棚原コミュニティ道路整備事業
- (2) 交通安全施設整備
- (3) 交通安全意識の高揚

行財政改革に向けては、

- (1) 新行政改革大綱及び実施計画の本格実施
- (2) 行政組織機構の見直し
- (3) 電算化推進(庁内LAN・事務効率化)
- (4) 町有地管理処分推進
- (5) 公共用地(図書館)取得を推進していきます。



町の花／ブルーゲンビリア

以上、町政運営の基本姿勢を申し上げますが、次に平成十三年度主要施策の概要を申し上げます。

1 平和事業の推進

二十世紀は二度に亘って世界大戦を経験し、「戦争の世紀」といわれました。特に、去る沖縄戦では県民約十数万が犠牲になり、本町においては住民の約半数近くの尊い命と多くの財産や自然を失いました。

このようなことから、私は平和の問題については、町政の最重要課題として位置づけ、あの忌まわしい沖縄戦の悲劇を忘れることなく、後世に語り継ぎ平和な社会建設に努めていくことが何より優先すべき課題と考えております。

そこで、護憲・反戦平和・命どう宝を基調に、引き続き第十四回親子で学ぶ戦争追体験平和バスツアーを実施するとともに、平和写真展、平和講演会の開催、さらには慰霊の日事業として「平和コンサート2001」を開催し、戦争と平和について世界へ発信し、また、町民が共に語り、考え、学ぶ機会を提供していきます。

町内の戦争体験者を「語り部」として引き続き公募・登録に努め、

医療費助成事業や児童生徒入学奨励金事業等を実施して、その福祉の増進を図ります。

(3) 障害児(者)の福祉

障害者が自らの障害を克服し、勇気と希望を持って社会参加と自立を図っていくことができるよう町障害者計画「ほのぼのプラン」に基づき各種の障害児(者)福祉の充実強化に努めます。

今年度は、心身障害児通園事業「あゆみ」の週四日の開設を行い、保育所・児童館との連携を図るとともに身体障害者協会、障害児者父母の会、はばたき共同作業所への補助金の交付や関係団体との連携を強化してその育成に努めます。

また、子どもたちの可能性を伸ばすため継続して障害児保育の拡充を図ります。

(4) ボランティア活動の推進

町民の多様な福祉ニーズに対応した活力ある福祉社会を築いていくためには、各種の公的施策の充実はもとより町民や企業、学校、各種団体等が自発的に福祉活動やボランティア活動に積極的に参加することが重要になってきております。

平成十二年度より町社会福祉協

各学校や地域での「出前戦争体験講話」を開設します。また、町制施行二十周年記念事業として整備された旧西原村役場壕跡や「弾痕跡の石塀」の利活用とともに、引き続き戦争遺跡マップ作成に取り組みます。



旧西原村役場壕跡落除幕式（2000年4月18日）

2 地域福祉の充実

急速な少子・高齢化の進行・共働き家庭が一般化していく中で、介護保険の導入にともない、住民の地域福祉に対するニーズや関心は高まるばかりであります。

このような社会情勢の変化の中、誰もが住み慣れた地域で健康で生きがいを持ち、安心して過ごせるよう明るい活力のある社会を築いていくためには、町や住民・民間企業などと役割分担を行って、町民への思いやりとぬくもりのある福祉サービスが提供できるような

体制を整備していく必要があります。

今後の福祉行政の推進に当たっては、町社会福祉協議会をはじめ、各種福祉団体等との連携をより一層強化し、町民の福祉ニーズに対応した地域福祉の充実を図ります。

(1) 老人福祉

昨年策定されました介護保険計画を包含する町老人保健福祉計画「ことぶきプラン21」に基づき、安心して日常生活が送れるよう各種高齢者福祉サービスの充実強化に努めてまいります。

今年度は、生きがい活動支援通所事業、軽度生活支援員派遣事業、配食サービス事業、家族介護教室等を引き続き実施するとともに、「いいあんべー共生事業」を新たに5地区を指定し、運営体制の充実強化を図ります。

また、高齢者が生き生きとしたライフステージを実現できるよう健康づくりと生きがい対策を図るため、老人クラブ連合会や単位老人クラブへの補助金を交付するとともに、高齢者が長年培った知識、経験、能力、技能を活かし、社会参加を進めている町シルバー人材センターの支援を図ります。

子保健関連法の改正(平成八年)

によつて母子保健事業が市町村に委譲されました。本町は若年層が多く、妊産婦や乳幼児期の健康管理が大切でありますので、妊娠・出産・育児についての知識の普及、啓蒙事業、疾病の早期発見・予防及び健康づくり事業の強化を図っていきます。さらに、町母子保健検討委員会並びに作業部会を中心に、町民参加による「地域づくり型母子保健計画」の策定に向けて鋭意作業を進めているところであり、本年度中には計画策定を完了する予定であります。

予防接種事業については、これまでの一般住民健診に加えて、今年度から麻疹(はしか)接種もより多くの乳児に接種してもらうため、一部負担金を無料にするとともに、その他の予防接種についても接種率を高めるよう充実強化を図ってまいります。

乳児の医療費助成については、平成六年度から一歳未満の乳児を対象に実施して参りましたが、平成十一年十月から医療費助成の対象を三歳未満の乳幼児に拡大しており、本年度も引き続き乳幼児の保健の向上と健やかな成長を支援してまいります。

さらに、平成十一年度から実施

(2) 児童・母子(父子)福祉
次代を担う子どもたちが健やかに生まれ育つことは国民すべての願いであります。

しかし、近年の子どもたちを取り巻く環境は、出生率の低下による少子化、核家族や都市化の進展、女性の社会進出等を背景として大きく変動しております。

このような中、今年度は、子育てと就労の両立支援策として乳幼児健康支援一時預かり事業(病後時保育)を新規に実施してまいります。さらに、保育に欠ける乳幼児の適正な入所の実施を図り、待機児童解消に向けた入所定員の弾力的運用、地域子育て支援センターの増設及び坂田保育所の改築による保育環境の整備等、保護者のニーズに対応した保育行政を推進します。

また、無認可保育園への補助金の増額を行うとともに、町保育連絡協議会、私立保育向上連絡協議会との連携に努めます。

今年度は坂田児童館を開設するとともに、児童館運営事業や放課後児童対策事業の推進及び母親クラブの育成等、児童の健全育成に努めます。

母子、父子家庭は、社会的にも経済的にも不安定な現状にあり、

している難病患者等居宅生活支援事業を引き続き実施し、難病患者等の居宅における療養生活を支援します。

また、精神保健福祉事業については、デイケア事業及び精神障害者小規模作業所運営助成事業を拡充し、精神障害者の社会復帰への支援を図ります。

平成十二年度から施行された介護保険制度については、新たな制度として多くの問題を抱えながらも順調に事業が展開されており、介護保険制度は、介護が必要になつても、残された能力を活かす、できる限り自立し、尊厳を持つて生活ができるようにするために、社会全体で介護を支え、利用者の希望を尊重したきめ細かな介護サービスの充実強化が求められております。施行して間もない介護保険制度は、まだまだ多くの問題が残されておりますが、要支援・要介護者に対し必要な介護サービスが適切に提供できるよう、介護保険給付サービスの必要量やサービス体制の確保、介護の質的向上、広報啓発等に努め、介護保険制度の充実に努めます。

一方、介護保険財政は、制度の周知とともに保険給付費が施行当初の見込み以上に増加し財政需要



町花木／サワフジ

は旺盛になっております。また、今年度は前年度の保険料半額が今年十月から主額となることもあり、益々厳しい財政運営を強いられるものと予想されます。高齢者人口の増加に相まって要介護者も増えるものと予想されており、高齢者を対象にした保健事業を関係機関と連携し、自立に向けた健康対策を推進し、財政の安定強化に努めます。

老人保健事業については、老人保健療養費等が介護保険に全面移行されたことに伴ない、全体として老人医療費の低減が図られましたが、老人一般医療費は従前と同様に増加している状況にあります。医療費の抑制を図るためには、高齢者の健康づくり事業の推進と医療費の適正化が重要となります。高齢者を対象にした保健施設事業を関係機関と連携を図るとともに、レセプト点検の充実強化に努めます。

国民健康保険事業については、被保険者も構造的に低所得者及び高齢者の割合が高く、それが起因して財政基盤は脆弱であります。国保財政は、介護保険制度施行を受け老人保健拠出金は低減されたものの、介護納付金に伴なう介護保険料の国保税への上乗せによ

29号の南風原及び与那原バイパスが都市計画決定されたことから、西原バイパス、並びに県道浦添西原線の延伸整備も含めて早期実現に努めます。

土地区画整理事業については、上原棚原地区は事業の進捗が遅れておりますが、地権者と積極的に交渉し、早期に工事を完了させるよう努力します。西地区については、平成十三年三月末に区画整理事業調査（基本計画）の成果が出来ますので関係課等と調整し、平成十三年度に権利者等を対象に事業説明会を開催します。区画整理事業調査（事業計画）並びに区画整理促進調査も同時に実施することにも、新規事業として、都市基本計画で位置付けされている中心核のまちづくり基本調査も実施してまいります。

（3）水道事業について
水道は健康で文化的な日常生活を営む上で重要なものであります。また各種産業活動や都市機能を維持する上でも必要不可欠なものであり、今日の水道事業の果たす役割は極めて重要であります。

町は、これまでも水の安定供給を図るため年次的に配水施設の整備拡充と経営の安定化に向けて鋭

る新たな被保険者への負担や増えつつける医療費の増大に依然として厳しい財政運営を強いられている状況にあります。このような状況の下で、一般会計からの繰入金（保険基盤安定制度、職員給与費等、出産一時金、財政安定化支援事業）、国庫支出金等の的確な運用を図るとともに、保険税収納率向上対策事業を継続し、昨年度のペナルティー解消を今年度も堅持するように努め、保険税収納率向上対策を強化します。

また、従来の国保財政充実強化運動（国保三％推進運動）の推進と高齢者健康指導事業を推進し、高齢者の生活改善・健康意識の向上を図るとともに、医療費の適正化に向けたレセプト点検を強化します。

4 安全で住みよい生活環境の整備

（1）道路網及び排水の整備
住民生活及び産業活動に不可欠な安全性・利便性を確保し、快適で住みよい生活環境の整備を図るため、道路網の整備拡充を重点施策として年次的に事業の推進を図ります。

今年度は、道路整備事業として、小那覇・マリントウン線改良工事

着工をはじめ、我謝・マリントウン線（仮称）・東崎線（仮称）の予備設計を行い事業化の推進を図るとともに、緊急地方道路整備事業で、翁長・上原線改良工事（Bタイプ）、小波津・与那城線道路整備工事（Aタイプ）、小橋川4号線（Aタイプ）、石油貯蔵施設立地対策等交付金事業で小那覇8号線の道路整備を図ります。

河川整備事業については、小波津川河川の二級河川格上げとともに、国に対し県とタイアップして早急に事業化の推進を図ります。また、防災カルテ作成及び国庫補助事業で土砂災害情報相互通報システム事業にも取り組んでまいります。

地方改善施設整備事業については、掛保久地内排水整備工事を施工し、道路網及び排水の整備拡充を図ります。また、道路台帳整備については、今年度も単独事業で予算措置を講じます。なお、国道関係の整備については、年次的に整備が図られるよう、今後とも早期整備促進に向けて努力します。

（2）都市基盤施設の整備
アメニティー豊かな都市空間の形成を確立するため、今後は、都市基本計画に基づいて策定された

流域下水道整備工事についても、年次的に実施されており、それに伴なう建設負担金の財源確保に努め、計画的事業の推進を今後も進めてまいります。

また、平成十四年度からの一部供用開始計画に基づき、下水道料金システムの確立や諸制度等の制定、加入率対策を含め運営システムの検討に努めて参ります。

（5）交通安全施設の整備と交通安全の推進

本町は都市近郊に位置し、通過交通・域内交通量の増大によって、年々交通事故も悪化の傾向にありますが、県内においては昨年、交通事故死亡事故が多発し、交通事故多発異常事態緊急アピールが発令されるなど、再び死亡事故が増大しております。

交通事故の未然防止と住民の生命の安全確保のため、交通安全の町を宣言し、広告塔を設置して積極的に交通安全意識の高揚に努めて参りましたが、今年度は新規事業として、翁長・棚原コミュニティ道路整備事業をはじめ、引き続き道路照明灯、道路反射鏡、道路区画線、道路標識、信号機等の交通安全施設整備促進を図ります。また、交通安全教育については、

市街地整備プログラムの指針を前提に、市街地整備や道路、公園整備等、重点的に整備すべき施策の効率的・効果的推進に努めます。

公園整備事業については、西原運動公園のパークゴルフ場エリアにおける駐車場の整備をはじめとして、散策・排水路整備及びテニスコートエリアの造成工事等を実施します。また、東崎公園については、用地の購入及び基本設計の策定を図ります。

マリン・タウン・プロジェクトについては、平成十二年度に先行取得（町村土地開発公社）しました工業及び住宅用地の基盤整備のための基本設計の策定に努めるとともに、今年度は商業用地及び水辺広場用地の先行取得（町村土地開発公社）を行う予定であります。



マリン・タウン・プロジェクト完成イメージ図

また、アクセスについては、平成十二年度において、一連の国道3

これまで同様、関係機関・団体とタイアップして、幼児、児童生徒及び高齢者の交通安全指導、街頭における立哨指導、広報活動等を引き続き実施し、事故の未然防止と交通安全意識の高揚を図り、安全で住みよいまちづくりを推進したいと考えております。

（6）環境保全と造林緑化の推進
環境問題は、産業構造の変化や生活水準の向上等に伴い、複雑多様化しており、公害対策や廃棄物の適正処理対策を講ずる必要があります。このため、環境測定調査、野犬・空き地対策、各区清掃作業等を引き続き実施します。

近年のごみ問題の深刻化や社会的関心、特に最終処分場の狭隘化と相まって、その減量化対策は、地方自治体にとって焦眉の課題であります。本町では平成九年十月からステーション方式から門口収集に移行し、平成十年一月からは、五種類分別による減量化対策を実施しているところです。

このような中で、南部広域一般廃棄物最終処分場の建設推進を図るとともに、生ごみ処理機・生ごみ処理容器・EMぼかし購入補助等、ごみ減量化促進対策を継続実施するとともに、新たにごみ袋の



町の花／ブーゲンビリア

指定、粗大ごみの有料化を実施し、なお一層、ごみの減量化を推進します。また、生活排水対策については、平成十年度から導入した合併処理浄化槽設置整備補助金制度（国庫補助事業）を活用するとともに、水質汚濁防止法に基づく生活排水対策推進計画を策定し、河川水質の改善を図ります。墓地行政についても、引き続き、地域環境と調和がとれるよう誘導し、無秩序な開発の防止に努めます。

緑は、地域景観の骨格を形成するとともに、地域住民に自然との共存を実感させ、また、国土の保全、水資源の涵養、自然環境保全等の公共的な機能を持つており、豊かな町民生活を維持していく上で大きな役割を果たしています。

今年度も引き続き、造林事業、保育事業、町道植栽等の緑化を推進し、潤いと安らぎのある緑豊かなまちづくりに努めます。

5 教育、文化、スポーツの振興

本町の平成十三年度主要施策の推進にあたっては、国、県の文教施策の動向を見据え、二十一世紀を担う幼児、児童生徒の健やかな成長に向け、本町教育基本目標である、「平和を愛し、勤労を尊び、

明るく、たくましい行動力と学習意欲に満ちた人間の育成」をめざして、国際化、情報化、高度化する学習ニーズに対応するとともに、平成十四年度より完全学校週五日制の実施に伴い、昨年に引き続き移行措置を講じ、さらに新しい学習指導要領に基づき、その趣旨や実施される教育課程の基準について理解を深めてまいります。また、創設された「総合的な学習の時間」及び選択学習の幅の拡大等に積極的に取組み、各学校における創意工夫を生かした特色ある学校づくり、文化、スポーツ振興を図るとともに、町民の多様な学習要求に応える生涯学習のまちづくりに努力を重ねます。

（１）学校教育の充実

学校教育において、社会の変化に対応できる児童生徒の育成や創造性、自ら学び考え、自ら行動するための生きる力を育み、思いやり、協調性など豊かな人間性を培う心の教育の充実を図るとともに、完全週五日制実施に向けて引き続き西原東小学校においては地域に開かれた学校をめざし、学校の開放をはじめ、「総合的な学習の時間」の取り組みに対し、各小中学校に助成するとともに、私立幼稚

園就園奨励補助金を四・五歳児まで拡大し、幼児教育をはじめ、平和教育の推進、国際交流・情報教育、福祉教育等の推進を図ります。

また、学校施設の整備については、西原小学校普通教室改築工事、西原東中学校普通教室棟騒音防止対策工事、西原小学校百二十年記念事業、西原東小学校二十周年記念事業等を実施します。

ソフト面の事業においては、学校教育の充実を図るため、今年度も指導主事の二人制、外国青年招致事業による語学指導助手と町単独での語学指導助手の配置による英語教育の充実に努めます。国際交流要員の配置及び海外研修派遣事業の充実強化により国際交流事業の推進、教育相談事業の充実とともに、県委託事業の心の教室相談・スクールカウンセラー事業を推進し、潤いのある教育環境づくりを図ります。また、「生きる力」の育成を目指し、学校・家庭・地域社会の連携による「中学生体験学習」を導入します。

学校給食共同調理場では、調理場内の床面の全面改修するとともに、引き続き「病原性大腸菌O-157」対策を強化し、安全管理及び衛生対策に努めます。また、青少年の健全育成、人材育成の強

化を図るとともに、「地域ぐるみ基礎学力向上推進協議会」及び教育諸団体への助成等、諸施策を推進し、教育の充実強化に努めます。

（２）生涯学習の振興

生涯学習は、町民が多様化・高度化する学習ニーズに応じて、「いつでも、どこでも、だれでも」学習機会を選択して学ぶことができる生涯学習体制の確立が強く求められております。



「創立20周年記念 公民館まつり」2001年3月10日 中央公民館にて開催

町民の生涯にわたる学習活動の振興を図るためには、文化・スポーツ活動等を含めた多様な学習活動のための総合的施策を展開する必要があります。

図書館建設については、用地取得及び建設に向けて体制を強化し、図書館建設委員会を設置し、図書館建築計画、基本設計の策定に努めます。また、生涯学習推進を図るため、生涯学習まちづくり推進

効利用を図りました。

今年度も健康づくり・体力づくりを推進するため、関係各機関・団体と連携を図りつつ、高齢者・婦人健康教室等、各種指導者講習会、町民新春トリムマラソン、少年少女陸上競技大会、いきいき健康フェスタ等の各種スポーツ大会を開催し、生涯スポーツの振興を図ります。

（４）青少年の健全育成の推進

次代を担う青少年は、一人ひとりが多様な可能性を持つ存在であり、青少年が心身ともに健やかに成長することは、町民の願いであり、また、社会全体の責務であります。

現代社会が複雑、多様化していく中で、青少年を取り巻く生活環境も著しく変化し、厳しい状況にあります。特に、児童生徒の問題行動は、相も変わらず増加し、また、犯罪の低年齢化等、凶悪化の傾向にあり、不登校・いじめ、金銭せびり、喫煙、飲酒、深夜徘徊は、大きな課題であり、今後、課題解決に向けて学校・家庭・地域社会が相互理解を深め、連携、協力し、それぞれの役割を担い、一体となつて取り組みを強化していくことが不可欠です。

今年も、引き続き中学校単位の生徒指導連絡協議会をはじめ、学校、PTA、青少協、教育相談室、民生委員・児童委員及び関係団体との緊密な連携を図り、青少年の健全育成に努めます。

また、今年度から中学生体験学習を実施するとともに、これまで同様衛星通信による「子ども放送局」の番組を町中央公民館より、学校が休業する第二・第四土曜日に放送し、心の教育や科学技術への夢を直接子どもたちに与える事業を継続して推進します。

（５）文化事業の推進

近年、住民の価値観の多様化やライフスタイルの変化により、本県の歴史や風土に育まれた伝統芸能、美術工芸等に対する理解が深まる一方、町の文化振興施策や町文化協会等の幅広い芸術文化活動を通して、町民の新たな地域文化創造の気運が高まっております。

今年度も琉球文化や文化財保護思想の普及・啓発を図るため、城跡めぐり、琉歌碑めぐり、民俗資料収集、野鳥観察等の事業を実施するとともに、字小那覇「梅の香り」歌碑建設補助及び字小波津棒術の九州民俗芸能大会派遣助成、さらに、児童・生徒の心豊かな情

6 産業の振興

（１）農業の振興

近年の農業をめぐる状況は、ガット・ウルグアイ・ラウンド農業合意受入による国際化の進展並びに高齢化の進行、中核農家及び後継者の減少等によつて農業生産が停滞する等、大きく変貌しております。

特に、本県農業の基幹的作物として重要な役割を担ってきたとうきびは、平成十一年／十二年期における生産量は、県全体で約96万トンと、さらに落ち込み、本町においても、9,060トンで前期より1,500トン減少しており、依然として厳しい状況下にあります。

平成六年から実施された品質取引は、平成十一／十二年期県平均甘蔗糖度が13.9度で、本町に



町の木／ガジマル

おいては13・2度となっており、今後、より一層生産及び品質の向上を図ることが求められております。

このような状況下で、翔南製糖株式会社も平成十／十一年期から中部製糖工場での操業を中止し、明治四十一年以来続いた製糖工場も遂に平成十一年十二月に完全撤去されました。今後、地域活性化と農家の自立を含めた農業振興の持続的発展を図るため、農業問題懇話会の継続、高齢者ビジョンの促進、経営構造対策事業、農業基盤整備事業の推進と消費地に近い地理的条件を活かした都市近郊型農業の確立に向け、関係機関とも連携を深めながら努力してまいります。

農業の基礎的条件である基盤整備事業については、継続事業である小橋川地区農地保全整備事業を推進し、安室地区基盤整備促進事業を計画しております。

さとうきびの振興については、沖縄さとうきび振興組合の無脱葉、無結束搬出の普及による省力化に努め、種苗圃設置事業、病害虫対策事業及び新植、更新奨励補助金の交付等を継続的に推進するとともに、栽培技術の向上、地域に適した品種の普及、さとうきび・糖

業再活性化事業を推進します。さらに、JAサンライズ、西原町さとうきび振興対策協議会等、関係機関とも連携強化を図ってまいります。

遊休地解消については、農業委員会、関係機関等とも協議を重ね、平成八年度に農地銀行を設置しましたので、今後、同銀行を活用し遊休地の解消に努めます。

また、ふれあい農園については、JAサンライズが町民ニーズに対応し小波津地内及び翁長地内に設置していることから、今年度も引き続き、支援をしてまいります。

さらに、農家の生産意欲の高揚と経営の安定化のために、農業用施設補助金・農薬購入補助金の交付及び農家の集いの開催等により農業の振興を図ります。



「21世紀西原町都市型農業を考えるシンポジウム」
2001年2月21日

本町の畜産は、温暖な自然特性を活かし、県民やわが国の食肉需

要を背景に発展してきましたが、牛肉の輸入自由化に端を発し、畜産物の国際化及び景気の後退等の影響もあつて価格も低迷し、さらに混住化による環境問題等、厳しい情勢にあります。

今後の振興策として、家畜防疫事業、環境保全のための畜産悪臭、汚水対策事業及び種畜購入補助金、子牛生産奨励補助金、畜産組合補助金、畜産共進会助成金等を交付し、畜産の振興を図ってまいります。

（2）水産業の振興

本町は、中城湾に面し漁業条件に恵まれており、現在、平成十年度にM・T・P・事業で船だまりが完成し、専業漁家も多くなっていますので、今年度も引き続き、水産奨励補助金（漁具・無線機等）を交付するとともに、水産団体への補助金を交付して水産業の振興を図ります。

（3）商工業の振興

国内の経済情勢が長期不況の続く中で、県内経済は、観光産業が好調に推移しているものの、中小企業をとりまく経済環境は厳しく、失業率も依然として高い水準で推移しており、地域産業の育成振興と雇用の場の創出が大きな課題と

なっております。

商工業振興については、商業ゾーンとしての中部製糖工場跡地利用がほぼ決定しましたので、今後、工業専用地域の基盤整備事業や平成十一年度で地域指定を受けた情報通信産業の育成・その他の企業立地に対する課税免除、中小企業の経営の安定化を図るための町小口資金融資制度、地元企業及び県内企業への優先発注等について、引き続き推進し、町内企業の育成を図ってまいります。

労働者の福祉増進、雇用の促進のための厚生施設として、また、商工会活動の拠点としての共同福祉施設の運営・活用をはじめ、町民優先雇用についても、企業訪問、説明会等、各種事業所の協力を得ながら継続的に推進します。

商工会が推進しているサワフジまちおこし事業の支援、さらに、商工会、通り会等へも補助金を交付して地域の活性化を促進し、商工業の振興を図ります。

7 女性行政の推進

本町は、これまで真の男女共同参画社会の実現をめざした各種女性行政施策を推進するため、女性行動計画推進本部及び女性行動計

画地域推進委員会を基軸に、さわ

ふじプラン及びさわふじ実施プランの計画的、体系的な事業執行に努めてきたところです。その結果地方自治法に基づき、各種審議会・委員会等への登用率も県平均9・2％に対して21・6％その他の各種審議会・委員会等については38・8％に達しています。引き続き政策・方針決定の場への女性登用問題については、庁内はもと

より各種審議会・委員会等へ計画的かつ積極的な登用を図り、各種企業についても、引き続き、女性の雇用機会の拡大、管理職への登用の要請を行います。さらに、女性の翼等の海外研修、日本女性会議への派遣事業を推進する一方、町女性団体連絡協議会や各種団体と連携しつつ、各種講演会の開催をはじめ、男女平等、女性の社会参画のための意識啓発事業等を推進します。

また、さわふじプラン策定から9年目を迎えた今年度は、第2次町女性行動計画の策定に向けて、町女性問題懇話会を設置し、幅広い意見を反映させた女性行動計画策定に取り組んでまいります。

8 国際交流事業の推進

近年の交通運輸システムの発達や情報通信技術の高度化に伴ない、社会・経済をはじめ、あらゆる分野において人・物・情報の移動が世界的規模で拡大しております。そして、国境を越えた地域間のボーダーレス化が一層進展し、地域経済や住民の日常生活も国際社会の動向に大きく影響される新たな時代を迎えております。

本県は歴史的・地理的特性と国際性豊かな県民性を活かした国際交流拠点として大きな期待が寄せられる中で、昨年は九州・沖縄サミットが開催されました。サミット開催を通して本県の歴史や文化、県民の平和の願いが広く世界に紹介され、これからの新時代に向けて本県のみならず、わが国と世界をつなぐ「人と人」、「心と心」の掛け橋として各種国際会議開催等、一大国際交流拠点となる可能性が高まったものと考えております。

今年度は、「第三回世界ウチナンチュ大会」が開催されますが、本町でも「第三回世界ニシハランチュの集い」を開催し、本町と町出身海外移住者との交流拡大を図ってまいります。

また、これまで推進してきた海外移住者子弟研修生受入事業や国際交流事業・海外派遣ホームステ

イ事業を引き続き実施するとともに、文化庁の指定事業である日本語教育推進事業については、平成十二年度で終了しましたので、今後は町教育委員会と連携しつつ、引き続き日本語講座の開設に努めてまいります。

さらに、懸案でありました国際交流アクションプログラム（国際交流行動指針）の策定に努めるとともに、民間レベルの国際交流組織づくりに取り組みます。

9 地域活性化事業の推進

地域の活性化を図るためには、それぞれの地域に住んでいる人々がその地域特性を活かしつつ、自主的に諸活動に参加し、信頼と連帯感に満ちたコミュニティの形成に努めることが最も大切です。

そこで、活力に満ちた明るい住みよい地域社会の形成に向けて、事務委託制度及び書記設置補助金の制度的利活用を通して、各自治会の自主的な地域自治活動を促進する一方、いいあんべー共生事業、学推協との連携による2002年の教育指導要領改訂に基づく学校完全週五日制、総合的学習の推進等を図って参ります。その他一般コミュニティ助成事業、コミュニ

ティセンター助成事業（呉屋公民館改築事業）町単独の手づくりのむら整備事業及び地域自治活動推進地区指定事業を引き続き実施するとともに、今年度は新たな世紀の到来を記念する第十三回西原まつり21を開催し、町民融和とコミュニティ意識の高揚に努めてまいります。

10 広報・広聴活動の推進

町民の意見や要望をできる限り町政に反映させる一方、行政情報を正確且つ迅速に伝達するための広報・広聴活動は、より民主的に開かれた行政運営を推進する上で最も基本となるものです。

そこで、広報活動の基軸となる広報にしはらについては、これまで町民に、より親しまれる広報紙をめざして、紙面数の増加及び紙面内容の充実・改善を図ってきたところですが、今後とも可能な限り各課作成のチラシ類等、各種行政情報の一元化を図り、町民の利便性を高めていきたいと考えております。

広聴活動については、インターネット及びホームページの拡充を図ることにより、町の情報を世界に発信するとともに、電光掲示板版



町花木／サワフジ

の設置により、引き続き町民のよ
り身近な情報を提供して参ります。

また、これまでの各種審議会・
委員会等の開催はもとより、昨年
度からスタートした情報公開制度
の活用及び町民公募制度の推進
を通して町民参加の機会を創出す
るとともに、Eメール、町民アイ
デア箱、窓口相談員制度の活用を
通してきめ細かな広聴活動の推進
と各種相談業務の推進に努めます。

11 執行体制と行財政の確立

執行体制につきましては、人口
急増をはじめ、継続事業や新規事
業への対応、さらには、地方分権
施行による国県からの権限委譲等
の自治事務や法定受託事務の増大、
介護保険制度の実施など、行政需
要は年々増大する中で、住民サー
ビス向上に向けての行政改革がな
お一層求められております。

そのため、執行体制の確立に当
たっては、新行政改革大綱及び実
施計画を踏まえて、スクラップ・
アンド・ビルドを基本に、一部職
種替等による定数抑制制、命令系統
の明確化、決裁事務の迅速化、行
政運営の効率化、管理・事務シス
テムの合理化、防災体制の強化、
自治体間交流等や職員研修による

資質の向上等により、執行体制を
確立し、住民サービスの向上に努
めます。

迅速かつ適切な住民サービス向
上については、複雑・高度化する
行政事務を効率的に処理するため
の町総合行政情報システム導入基
本計画に基づき、電算単独導入と
庁内LAN、また、地域情報化施
策として地域インターネット導入
促進事業を行いました。今年度
もその拡充に努めます。

行政運営の公正の確保、透明性
の向上、及び町民の権利利益保障
については、引き続き、情報公開
制度・個人情報保護制度の運用・
強化を図ります。

今年度は、中長期的視点に立脚
した行財政運営の確立に向けて、
町有地管理処分及び公共用地（図
書館）取得の推進を図ります。

財政運営については、長引く不
況を背景に依然として厳しい経済
状況下において、国家財政も地方財
政もその影響を諸に受け、特に、
税財源移譲を伴わない地方分権や
介護保険の施行等、増大する行政
需要に対応する所要財源の確保に
大変苦慮しているところであります。

予算編成については、国の地方
財政対策、県の予算編成説明会で
の資料をもとにして、歳入におい

ては、町税、地方譲与税、地方交
付税、各種交付金、国・県支出金、
町債等の的確な把握に努めます。

そして、自主財源の大宗をなす
町税については、税制改革による
恒久減税措置が進む中であつて、
課税客体の把握、徴収率の向上に
努めるとともに、自主財源確立推
進本部の下に、納税思想の高揚と
自主財源の確保に一層努力します。

また、歳出については行政需要
が増大する中で、一般行政経費の
抑制、節減合理化に努め、予算配
分についても総合的な見地から各
種施策、事業等を厳選し、重点的
効率的な財政運営に努めます。

12 予算案について

平成十三年度の各予算については、
申し述べました諸施策事業等を中
心に編成しております。なお、（
内の数字は対前年度当初比率です。

（1）一般会計歳入歳出予算案
八、〇〇一、九五七千円

（三・七％）

（2）老人保健特別会計歳入歳出
予算案

一、五九四、〇三六千円

（九・三％）

（3）国民健康保険特別会計歳入
歳出予算案

二、四九〇、二六三千円
（七・〇％）

（4）介護保険特別会計歳入歳出
予算案

九七七、八八一千円
（二九・四％）

（5）土地区画整理事業特別会計
歳入歳出予算案

一四〇、五五四千円
（△十三・四％）

（6）公共下水道事業特別会計歳
入歳出予算案

七二五、二七三千円
（一・六％）

（7）水道事業会計予算案につい
ては、事業収益九〇一、八

七九三千円、資本的収入五
七、二〇〇千円、資本的支
出一一五、〇二四千円で資
本的収入が資本的支出に対
し不足する額五七、八二四

千円については、過年度分
消費税及び地方消費税資本
的収支調整額二、〇〇〇千円、
過年度分損益勘定留保資金

四〇、〇〇〇千円、当年度
分損益勘定留保資金十五、
八二四千円で補填します。

平成十三年三月九日

西原町長 翁長正貞

新しい収入役に古堅和子氏

連続女性収入役は県内初

助役（大城助徳氏）、教育委員（島田賢松氏、古堅ヤスエ氏）、監査委員（上原節夫氏）は再任

町議会（宮平宗輔議長）は二月十六日、臨時議会を開き、二月二十三日で任期満了となる町助役について審議し、町から提案のあった現職の大城助徳氏（五十一歳）を全会一致で再任しました。大城氏は二期目。任期は二〇〇五年二月までの四年間。

さらに、町の監査委員に上原節夫さんが全会一致で再任されました。また、三月九日から始まった定例議会では、教育委員に島田賢松氏と古堅ヤスエ氏が再任され、新しい収入役には古堅和子氏が決まりました。二期連続女性収入役は県内初となります。定例議会での投票は無記名で行なわれ、議長を除く出席議員二十人が投票し、結果は、古堅ヤスエ氏と古堅和子氏は全会一致。島田賢松氏十一対九の賛成多数で同意されました。



古堅和子氏



大城助徳氏



古堅ヤスエ氏



島田賢松氏



上原節夫氏

三人の任期は平成十三年四月三日から平成十七年四月二日まで。

大城助徳氏（おおしろ・すけのり）一九四九年生まれ、琉球大学法文学部卒。七十二年西原村役場に入り企画

課長、総務課長、水道課長。九十七年に助役就任。
古堅和子氏（ふるげん・かずこ）一九四一年生まれ、日本社会事業大学卒。六四年那覇市役所に入り福祉部児童課主幹、福祉部福祉課主幹を経て九五年から那覇市出納室副参事兼室長。
島田賢松（しまだ・けんまつ）一九三五年生まれ。琉球大学教育学部卒。五八年辺土名高等学校勤務。九一年沖縄県人材育成財団・語学センター所長。九三年県立向陽高等学校校長。九六年同校定年退職。九七年から西原町教育委員会委員。

古堅ヤスエ（ふるげん・やすえ）一九五二年生まれ。香川県四国学院大学社会福祉学科卒。九七年から西原町教育委員会委員に任命。
上原節夫（うえはら・さだお）昭和二十五年に首里高等学校を卒業。同年琉球銀行入行。昭和二十六年琉球政府南部地方税務署（現沖縄税務署）採用。昭和六十一年平良税務署長。昭和六十三年沖縄国税事務所税務相談室長。平成二年退職。平成四年税理士事務所開設。平成九年から西原町監査委員に選任。

効率的な財産運営を要望

町有地管理処分計画検討委員会が答申

町有地の管理及び処分に關する必要な事項の審議を行なっていた西原町町有地管理処分計画検討委員会が三月五日、午後、翁長町長に答申を行いました。

今回は、管理保有すべき財産については有効・適切な活用をし、処分すべき財産については、公平・公正に適正な価格設定により速やかに処分できるものから処分することとし、町有地の処分利活用などを答申しました。

大城常夫委員長は「この答申を町の将来にとって有効に活用してくれば、ありがたい」とあいさつし、答申を受けた翁長町長は「処分する町有地と活用するべきものを取捨選択して町民に還元できるよう努力していきたい」と述べました。



三月十、十一日に西原町中央公民館の創立二十周年を記念した公民館まつりが町中央公民館で行なわれました。十日には開会セレモニーが行なわれ、島田賢松教育長は「公民館活動が充実発展してきたのは歴代の館長ならびに関係者のみなさまのおかげ。町民のふれあいの場としてさらなる発展を願います」と述べ、野島英秀中央公民館館長も「これまでの公民館活動の成果は、関係者の努力と生涯学習への認識の深さから生じたものです」と関係者への感謝の意を表しました。その後、セレモニーでは歴代の専任館長や二十年以上活動してきたサークルの表彰、翁長正貞町長、宮平宗輔町議会議長の祝辞などが行なわれました。まつりでは、棚原自治会による組踊り「雪払い」や琉舞、民踊、ダンスなど各サークルから多彩な発表が行なわれました。また、西原町地域日本語教育推進委員会主催の日本語スピーチ大会が、日本語講座に参加している外国人のみなさんなど十二名が参加して行なわれました。

まちの話題

創立二十周年記念 公民館まつりを開催

三月十、十一日に西原町中央公民館の創立二十周年を記念した公民館まつりが町中央公民館で行なわれました。十日には開会セレモニーが行なわれ、島田賢松教育長は「公民館活動が充実発展してきたのは歴代の館長ならびに関係者のみなさまのおかげ。町民のふれあいの場としてさらなる発展を願います」と述べ、野島英秀中央公民館館長も「これまでの公民館活動の成果は、関係者の努力と生涯学習への認識の深さから生じたものです」と関係者への感謝の意を表しました。その後、セレモニーでは歴代の専任館長や二十年以上活動してきたサークルの表彰、翁長正貞町長、宮平宗輔町議会議長の祝辞などが行なわれました。まつりでは、棚原自治会による組踊り「雪払い」や琉舞、民踊、ダンスなど各サークルから多彩な発表が行なわれました。また、西原町地域日本語教育推進委員会主催の日本語スピーチ大会が、日本語講座に参加している外国人のみなさんなど十二名が参加して行なわれました。



みんなで広げよう 踊りの輪 人の和

第十八回那覇、浦添、西原地区民踊まつり「西原大会」を開催

二月二十五日、西原町民体育館にて第十八回那覇、浦添、西原地区民踊まつり「西原大会」（共済：沖縄県民踊研究所・西原町教育委員会）が開催され、三地区から多数の民踊愛好家が集いました。三地区をもちまわりで開催されている同大会は、今回「みんなで広げよう 踊りの輪 人の和」をテーマに行なわれ、主催者代表で沖縄県民踊研究所の仲本興真会長は「民踊はいつでも、どこでも、だれでも参加できる。沖縄全体に民踊を発展させるんだという意気込みで交流を図ってください」とあいさつしました。大会は、新しい踊りの講習会や各地区の踊り、総踊りなどで構成され、参加者は思い思いに個性ある踊りを表現していました。



町PTAサミットを開催 西原町PTA連合会

新しい教育の変化にPTAはどう取り組むかをテーマに西原町PTAサミット（主催：西原町PTA連合会）が二月二十四日、午後、町中央公民館にて開催されました。

開会に先立ち赤嶺秀政西原町PTA連合会会長は「二十周年という節目に総合的学習への取り組みなど親、教師のみなさんと共に、認識を新たに取り組んでいきたいと考えている。基礎学力を基本に、子ども達といっしょに生きる力や自己実現、進路について考えていきたい」とあいさつしました。

第一部では、「総合学習とは」というテーマで米須良成西原中学校長や中学生による体験学習発表が行なわれ、第二部では「PTAはどうかかわるか」というテーマで西原南小学校PTAの具志真考さんが発表を行い、ディスカッションが行なわれました。

また、九州PTA会長賞を受賞した赤嶺秀政会長（個人の部）や西原東小学校PTA（団体の部）、県PTA広報誌優秀賞を受賞した西原中学校PTAの受賞祝賀会が行なわれました。

呉屋博之さんに表彰状

呉屋博之さん（字嘉手苅）が、二月十七日に熊本県で行なわれた第四十三回九州地区体育指導委員研究大会で、長年の体育指導委員としての功績が評価され表彰されました。

体育指導委員はスポーツや軽スポーツ、レクリエーションなどの教室や企画指導を行なうものです。

十七年余にわたり体育指導委員を続けてきた呉屋さんは「これからも表彰に恥じないようにがんばっていききたい」と感想を述べていました。



トピックス



音楽で育てるユイマールの心

はばたき共同作業所が 活動資金造成コンサート

三月十八日、午後、はばたき共同作業所所員のみなさんが、活動資金造成コンサート（共催：はばたき共同作業所活動資金造成実行委員会・西原町社会福祉資金造成実行委員会）を町中央公民館で行ないました。

コンサートは二回公演で行なわれ、会場は立ち見が出るほど観客で満員になりました。

所員達は「芭蕉布」や「島唄」などを合唱し、「稻しり節」や「パーランクー」を踊るなどで会場を沸かせました。

また、今回は根路銘広美琉舞研究所や大城初江お琴教室などが協力参加し、踊りや演奏を披露しました。

あいさつに立った、はばたき共同作業所所員の伊禮勝隆さんと小橋川めぐみさんは、日頃の所員の活動内容を紹介しながら「これまでの練習成果をどうぞごらんください」と力強く話し、はばたき共同作業所活動資金造成実行委員会の呉屋定子委員長は「所員はやればできるんだと、がんばってききました。今後とも応援をお願いします」と会場に呼びかけました。

コンサートは多くのボランティアの協力で成功裡に幕を閉じ、関係者は、協力してもらった方々へ感謝していました。

都市型農業のありかたを模索

21世紀西原町都市型農業を考えるシンポジウムを開催

二月二十一日、午後、西原町主催の「二十一世紀西原町都市型農業を考えるシンポジウム」が町中央公民館で開催されました。今回のシンポジウムは、近年における都市化の進展に伴い農地転用の増加や農業者の他産業への流出等、農業をとりまく諸情勢が大きく変化している西原町において、さらなる農業の推進を目的に行なわれたもの。

主催者あいさつで翁長町長は「都市化の影響で町の農業人口は下降ぎみだが、町の立地条件を生かして都市型農業を模索していきたい」とあいさつしました。

シンポジウムは、まず「混住社会と都市型農業」(二十一世紀西原町はどう取り組むか)という演題で琉球大学農学部教授、吉田茂氏の基調講演が行なわれ、その後、「二十一世紀西原町の都市型農業への取組について」というテーマでパネルディスカッションを行い、これからの西原町の農業について考えました。



パネルディスカッションでは県農林水産部OBの石川広道氏をコーディネーターに、小波津仁一県農林水産部OB、渡久地トヨ中部農業改良普及センター所長、長嶺由光西原町農業委員会会長、城間

英一J Aサンライズ農業共同組合常務がパネリストとして、それぞれの意見や提言を述べました。

小波津さんは「高齢者に

優しい支援策を実施し、施設型農業を進めるべき」と提言し、渡久地さんは「女性や高齢者がかかわれるよう施設整備をし足腰の強い農業を推進してほしい」と指摘、長嶺さんは農業委員会の役割や農業の推進を農業委員会が支えている現状

を説明しました。城間さんは、施設化により野菜が夏場に生産が落ちる対策を提言しました。会場からは、参加者から「有機農業を推進してほしい」、「サトウキビを学校給食に取り入れてほしい」など、活発な意見がでました。

地権者の合意8割に

小波津川の2級河川指定と整備を要請

大雨のたびにはらんし、町民に多大な被害を与えている小波津川。町は河川改修計画を進めていますが、単独整備は財政上困難なため、県管理となる二級河川に昇格させるために必要な住民同意の取り付けを行って

います。川幅を広げるための改修工事に土地や建物がかかる地権者は約百九十人。昨年末にようやく八割の同意が得られたことから、三月八日、翁長正貞町長は県に出向き、宮城一徳河川課長に二級指定と整備要請を行いました。

要請に対し宮城河川課長は「河川改修の早期完了を目指し今後は、残りの事業同意を取り付けることと、河川と沿川を一体的に整備できるように整備スケジュールを検討しなければならない」と回答しました。



県に要請書を手渡す翁長町長



小波津川河川計画の広報板

今後も整備実現に向けて、

ごみの有料化実施を答申

町一般廃棄物減量等推進審議会

- 一般廃棄物の減量化の推進及び適正処理に関する事項について審議を行なっていた、西原町一般廃棄物減量等推進審議会が、三月六日午前、翁長町長に答申しました。
- 今回は、ごみ排出抑制への施策方針として
- ①住民への意識啓発活動
- ②集団回収への支援
- ③「生ごみ処理機購入費補助制度」等の活用
- ④有料化の実施
- などが答申されました。
- 新里勝弘委員長は「有料化については、委員からいろいろな意見がだが、これから住民の意識改革を図ることが重要な課題だと

思う」と述べました。

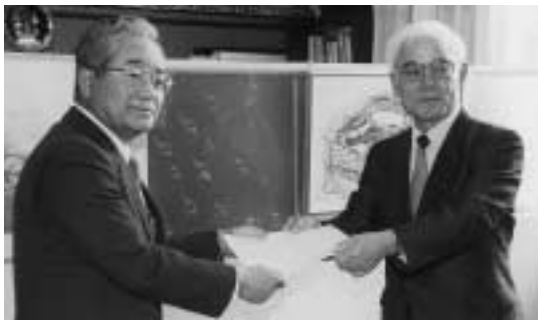


答申書を手渡す新里委員長(右)

経営的発想導入の行政システム 創りを行政改革推進委員会が答申

行政改革大綱の見直しを検討していた西原町行政改革推進委員会が三月十九日、午後、翁長町長に答申を行ないました。

今回の答申は、①民間的経営発想を取り入



答申書を手渡す大城委員長(右)

れた行政システム創りをすること②開かれたプロセス

による大綱の策定③大綱(実施計画)に具体的「数値目標」を掲げての取り組み④事務事業の総点検・見直しの実施などが特色となっていて、大城進一委員長は「町が行政改革に真摯に取り組んでいることが町民にみえるようにお願いしたい」とあいさつし、答申を受けた翁長町長は「みなさんの意見を最大限に尊重して、町民にわかりやすい行政に取り組みでいきたい」と述べました。

翁長町長は「有料化は、一人一人が意識改革して取り組みないといけない。全町民に浸透するのは時間が

かかると思うが、この計画を着実に遂行できるよう努力したい」と述べました。

マリン・タウン地内橋名

命名者表彰式

三月八日午後、西原町役場町長室でマリン・タウン地内橋名命名者表彰式が行なわれました。

今回表彰されたのはマリン・タウン埋立て地内に新たに造られた二号橋を「雄飛橋(ゆうひばし)」と命名した喜屋武良則さん(字桃原在・



左から小島進太郎さん・屋良有紀さん・喜屋武良則さん

四十二歳)と三号橋を「あがりざき橋」と命名した小島進太郎さん(字上原在・坂田小学校五年生・平成十三年三月八日現在)、屋良有紀さん(字上原在・坂田小学校五年生・平成十三年三月八日現在)の三名です。

喜屋武さんは「マリン・タウンが二十一世紀に西原町の発展に向けて雄雄しくはばたいていく意味をこめてつけた。自分の考えたものが橋の名前になるのはうれしい」、小島さんと屋良さんは「二人で図書室で文字よりひらがなの方がわかりやすいかなと思ってつけた」と受賞の感想を話してくれました。

平成13年度の保険料の納め方は…

平成13年度は、9月分までは本来の保険料の半額を、10月分からは本来の保険料を納めます。

保険料の納め方には、「特別徴収（年金からの差し引き）」と、「普通徴収（役場の窓口や銀行、口座振替などによる個別納付）」の2種類があります。

普通徴収

の人は、年間の保険料を納付書で納めます。

保険料は、西原町役場から送付されてくる納付書の納期にしたがって納付します。納め忘れのない口座振替が便利です。

※年金額が年額18万円以上の人でも、こんなときは年金の額に関係なく9月分までは納付書で納めます。

- 平成12年度中に65歳になったとき。
- 平成12年度中に他の市町村から転入したとき。
- 平成12年度中に保険料額や年金額が変更になったとき。
- 年度の初め（4月1日）の時点で年金を受けていなかったとき。

特別徴収

の人は、年金受給月ごとに年金より差し引かれます。

前年度から継続して特別徴収の人の保険料は、4・6・8月と10・12・2月に区別されます。4・6・8月は、平成13年2月分の保険料額をそのまま差し引かれます（仮徴収）。10・12・2月は6月以降に確定する前年度所得などをもとに年間の保険料を算出し、そこから4・6・8月の保険料を除いて調整された金額を10・12・2月に振り分けて差し引かれます。（本徴収）

平成12年度			平成13年度					
10月	12月	2月	4月	6月	8月	10月	12月	2月
本徴収			仮徴収			本徴収		

前年度の2月分の保険料額がそのまま差し引かれます。

前年度の所得をもとにした保険料から仮徴収分を除いた額が差し引かれます。

仮徴収とは

特別徴収の人は、年金の給付（年6回）時に保険料が差し引かれますが、前年度所得が確定する6月以降でないと保険料が決まらないため、4・6・8月は前年度2月分の保険料額をそのまま、仮に決めた保険料額としています。

介護保険料のしくみについて

だいごうひほけんしゃさいいじょうかた
【第1号被保険者(65歳以上の方)】

① 保険料の決め方

- 介護保険は、介護が必要な方を社会全体で支えるため、必要な費用を保険料と公費（税金）でまかないます。
- 65歳以上の方（第1号被保険者）の保険料の基準額は、西原町のサービスにかかる費用に応じて決まります。
- 保険料は前年中の所得の状況などに基づいた段階別の金額となり、個人ごとに決められます。

所得段階	対象者	割合	基準額×割合＝保険料額（年額）
第1段階	生活保護を受けている方 老齢福祉年金受給者で世帯全員が住民税非課税	0.5	41,100円×0.5＝20,500円
第2段階	世帯全員が住民税非課税	0.75	41,100円×0.75＝30,800円
第3段階	本人が住民税非課税	1.0	41,100円×1.0＝41,100円
第4段階	本人が住民税課税で年間合計所得金額が250万円に満たない方	1.25	41,100円×1.25＝51,400円
第5段階	本人が住民税課税で年間合計所得金額が250万円以上の方	1.5	41,100円×1.5＝61,600円

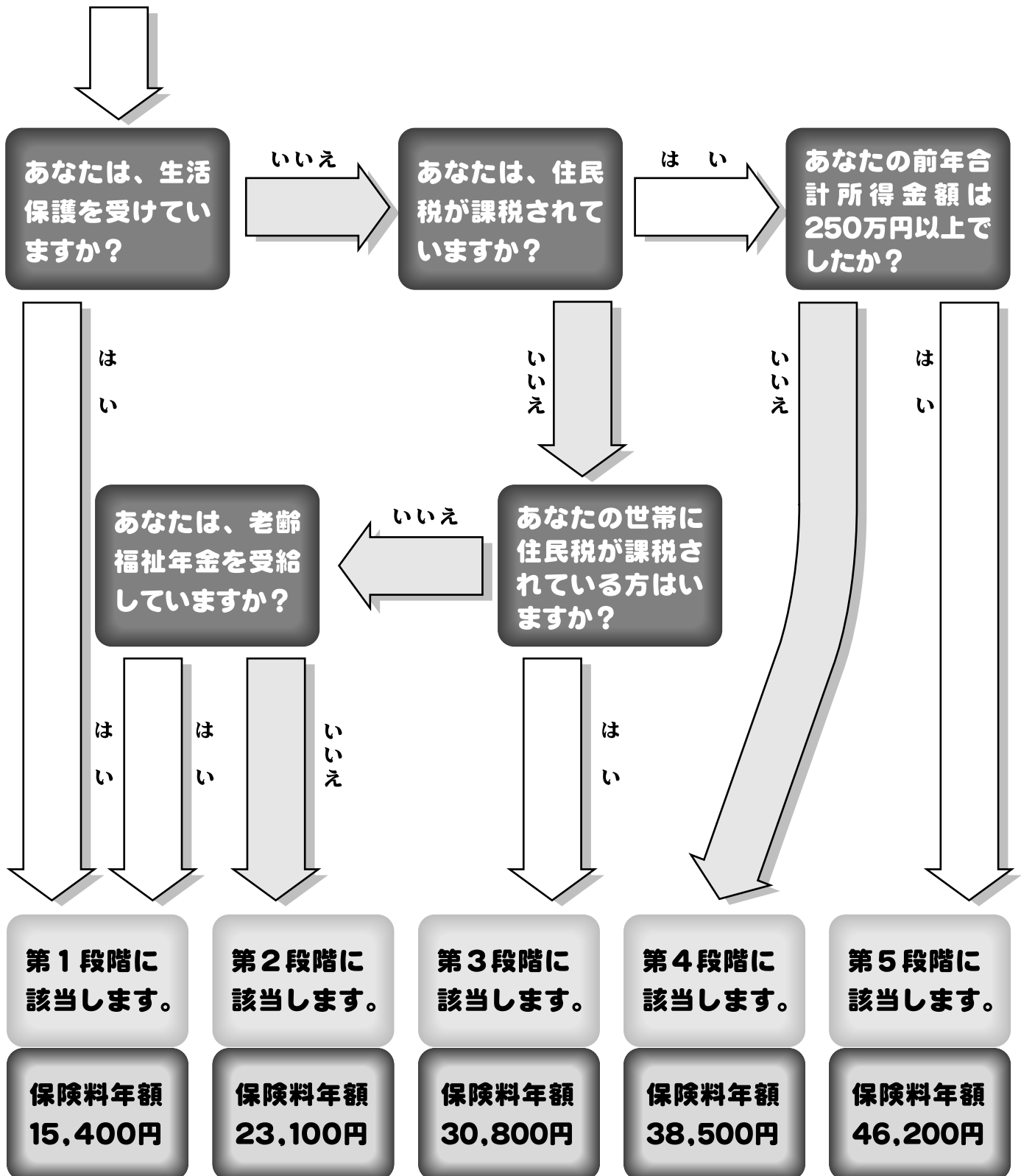
※「合計所得金額」とは、例えば年金収入のみの方であれば、年金収入額から公的年金控除額などを差し引いた額です。
※新たに65歳になられる方で、町外からの転入、西原町からの転出により、1年を通じて第1号被保険者とならない方は、月割により保険料を計算します。

② 保険料の軽減（特別対策）お支払いは平成12年10月から始まっています。

- 平成12年4月から9月まで……………保険料を納付する必要はありません。
- 平成12年10月から平成13年9月まで……………保険料は半額になります。
- 平成13年10月以降……………本来の保険料を納付していただきます。

4月	10月	4月	10月	4月
平成12年度		平成13年度		平成14年度
保険料徴収はありません		本来の保険料の半額を納付します		本来の保険料を納付します

ここからスタート



※住民税は当該年度の保険料賦課期日（4月1日）の属する年度分

※合計所得金額は前年1年間（1月1日～12月31日）の所得金額の合計

④ 毎月の保険料額は ……

平成13年度 特別徴収（年金からの差し引き） （単位：円）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
第1段階	1,700		1,700		1,700		3,500		3,400		3,400		15,400
第2段階	2,500		2,500		2,500		5,200		5,200		5,200		23,100
第3段階	3,400		3,400		3,400		7,000		6,800		6,800		30,800
第4段階	4,200		4,200		4,200		8,700		8,600		8,600		38,500
第5段階	5,100		5,100		5,100		10,300		10,300		10,300		46,200
天引きの日	13日		15日		15日		15日		14日		15日		

平成13年度 普通徴収（役場の窓口や銀行に個別納付） （単位：円）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
第1段階				1,300	1,100	1,100	3,100	2,200	2,200	2,200	2,200		15,400
第2段階				1,900	1,700	1,700	4,200	3,400	3,400	3,400	3,400		23,100
第3段階				2,500	2,300	2,300	5,300	4,600	4,600	4,600	4,600		30,800
第4段階				3,000	2,900	2,900	6,500	5,800	5,800	5,800	5,800		38,500
第5段階				3,600	3,500	3,500	7,600	7,000	7,000	7,000	7,000		46,200
納期限				31日	31日	10月1日	31日	30日	1月4日	31日	28日		

おきなわマラソン2001フォト

2月18日(日)に、2001おきなわマラソンが行われました。選手やボランティアのみなさん、お疲れさまでした。



人間ドック受診者募集のお知らせ

健康衛生課・保険課では平成13年度人間ドックの受診者を募集します。昨年度受診された方でも連続して受診することができますので、皆さんのご利用お待ちしております。

●募集人数：590人（予定）

●受付日：平成13年4月11日（水）
午前8：30から（定員になり次第締め切ります。）

●受付場所：西原町役場 2階大会議室

●受診期間：平成13年4月下旬～7月末日まで
（注）各自で受診を希望する下記の医療機関に予約をした上、受診して下さい。

●医療機関：ハートライフ病院 ……………（電話 895-3255）
アドベンチストメディカルセンター ……（電話 946-2833）
与那原中央病院 ……………（電話 945-8101）
※沖縄県総合健康増進センターでの受診はありません。

●対象者：30歳以上の町民

●受診料：27,300円（うち自己負担11,100円 町負担16,200円）

●申し込み方法：直接窓口で受け付けます。受診票を発行するため、電話受付は致しません。
（注）代理人による申込みも出来ませんが、受診希望者の住所・氏名・生年月日・電話番号の記入が必要です。

●お問い合わせ：健康衛生課 TEL.945-5013
保険課 TEL.945-4791

児 童 手 当

児童手当は、児童を養育している人に手当を支給することにより、家庭における生活の安定と、次代の社会を担う児童の健全な育成及び資質の向上を目的としています。

○支給の対象

児童手当は、小学校入学前の児童を養育している人に支給されます。ただし、前年の所得（1月から5月までの月分の手当については前々年の所得）が一定額以上の場合には、所得制限により児童手当は支給されません。

○児童手当の額

第1子 5千円（月額）
第2子 5千円（月額）
第3子以降 1万円（月額）

○児童手当の支給

児童手当の支給は、認定請求をした日の属する月の翌月から開始（一部特例があります）され、支給事由の消滅した日の属する月分で終わります。

なお、手当は2月、6月、10月にそれぞれの前月分までが支給されます。

※申請主義となっていますので、出生届け、転入届を提出した方（児童手当受給該当者）は、福祉課窓口にて申請して下さい。

西原町役場福祉課・児童手当係 ☎（945）5311（内線123）

母子・父子家庭入学激励金の申請について

町では母子家庭及び父子家庭に対し、小・中学校に入学する児童を扶養している家庭の福祉増進を図るとともに、児童の入学を祝い、激励するために入学激励金を支給しています。入学激励金を受ける場合、入学激励金支給申請書の提出が必要です。

【受給資格者】

西原町に住民登録をしていて、母子家庭及び父子家庭で平成13年度小・中学校に入学する児童を養育している方。

【入学激励金の額】

児童一人につき1万円

【申請方法】

平成13年4月9日～4月27日までの間、福祉課窓口にて申請（対象者には別途通知します）

※詳しくは、福祉課 ☎（945-5311／内線123）へ、お問い合わせ下さい。

尿失禁について

くしゃみや咳で尿が漏れたり、尿意がないのに我慢できずに尿を漏らしてしまう状態を「尿失禁」といいます。尿失禁は女性に多く、尿失禁で泌尿器科を受診する人のうち約90%が女性です。また、尿失禁を経験したことのある人は、加齢とともに多くなり、40～50歳代の女性では、2人に1人が経験しているといわれます。

尿失禁が中高年の女性に多いのは、男性に比べて尿道が短いのに加え、骨盤内の臓器を支えている筋肉（骨盤底筋）が弱いからです。骨盤底筋は、骨盤の底に当たる部分に、尿道、膣、肛門を取り囲むような位置にあり、下から骨盤内の臓器を支える働きをしています。女性は加齢によって筋肉が衰えるほか、妊娠、出産などで、この筋肉によけいに負担がかかるのです。

骨盤底筋が弱くなると、膀胱を正常な位置に支えていることができず、腹圧によって膀胱と尿道が下にずれてしまいます。そのために、尿道をしっかりと締めつけられなくなって、尿が漏れてきます。

尿失禁には、いくつかの種類があり、原因はさまざまですが、多くの尿失禁は簡単な治療で改善することができます。しかし、尿失禁を経験している人が多いにもかかわらず、医療機関を受診する人は多くありません。尿失禁が命にかかわらないことに加え、受診するのが恥ずかしいという抵抗感があるため、独りで悩んでいる人も多いでしょう。仕事に支障を来していたり、旅行や外出をためらってしまうなど、QOL（生活の質）に影響が現れている場合には、恥ずかしがらずに泌尿器科を受診することをお勧めします。

日常生活のポイントとしては以下のことが挙げられます。

- 便秘の改善：便秘は膀胱を圧迫するので尿が我慢できなくなることがあります。便秘の改善には、水分補給、繊維の多い食事、適度な運動、排便習慣をつけることなどが挙げられます。
- 排尿日誌をつける：1日の排尿回数、排尿量、尿失禁量を記録します。自分の排尿パターンが把握できると、例えば、夕食後に失禁量が多ければ、夕食後は水分の摂取を控えるといった具合に、対策が立てやすくなります。
- 神経質にならない：尿失禁を気にしすぎると、日常生活にも支障を来すようになります。不安だからと、尿意もないのにむやみにトイレに行くのはよくありません。
- 水分摂取について：尿が漏れにくいようにと、水分を控える人がいますが、体内の水分が不足すると脱水症状を引き起こしたり、腎臓や膀胱に悪影響を及ぼすことがあります。水分はきちんととることが大切です。
- 骨盤底筋を強くする運動：①背筋を伸ばして、足を肩幅に開きます。ゆっくりと呼吸して、お腹をリラックスさせます。
②お腹に力を入れずに肛門、膣、尿道に力を入れ、収縮させます。
③その状態を5秒間保ちます。
④ゆっくり力を抜きます。

骨盤底筋体操は、どんな姿勢でもよいので、1日に50回くらい行います。毎日継続していると、3ヶ月くらいで骨盤底筋が強化され、効果がでてきます。

※尿失禁のことでお悩みの方は、健康衛生課・保健婦まで気軽にご相談下さい。 健康衛生課／945-5013

月 日	事業名	対象者	場 所	受付時間
4/3 (火)	リ ハ ビ リ	脳 卒 中 後 遺 症 者 等	社会福祉センター	13:30 ～ 14:00
9 (月)	心の病を支える家族の会	心の病回復者の家族	中央公民館	14:00 ～ 16:00
10 (火)	リ ハ ビ リ	脳 卒 中 後 遺 症 者 等	社会福祉センター	13:30 ～ 14:00
11 (水)	人間ドック受付	30歳以上の町民	西原町役場	8:30 ～ 17:00
12 (木)	三歳児健診	H9.12.9～H10.1.12	中央公民館	13:30 ～ 14:15
13 (金)	はつらつ健康教室	健康増進に関心のある者	町民体育館	13:00 ～ 13:30
15 (日)	日本脳炎	小学4年・中学3年	中央公民館	9:00 ～ 10:30
17 (火)	リ ハ ビ リ	脳 卒 中 後 遺 症 者 等	社会福祉センター	13:30 ～ 14:00
18 (水)	デ イ ケ ア	心の病回復者	役場健康衛生課	9:00 ～
19 (木)	一歳半健診	H11.9.16～H11.10.19	中央公民館	13:30 ～ 14:15
22 (日)	日本脳炎	小学4年・中学3年	中央公民館	9:00 ～ 10:30
24 (火)	リ ハ ビ リ	脳 卒 中 後 遺 症 者 等	社会福祉センター	13:30 ～ 14:00
27 (金)	はつらつ健康教室	健康増進に関心のある者	町民体育館	13:00 ～ 13:30
5/8 (火)	リ ハ ビ リ	脳 卒 中 後 遺 症 者 等	社会福祉センター	13:30 ～ 14:00

お問い合わせ：健康衛生課／945-5013

町女性問題懇話会の 委員公募について

第2次西原町女性行動計画の策定に当たり広範囲な意見を反映させるため、「西原町女性問題懇話会」委員の一部について公募します。女性問題に関心のある方を希望します。

【募集人員】

4人

(委員12人中、4人の公募)

【応募資格】

西原町に住所を有する者

【任期】

1年(予定)

【会議回数】

8回(予定)

【応募方法】

所定の応募用紙に記入の上、企画財政課に提出して下さい。

※応募用紙は企画財政課にて配布。

※応募多数の場合は、書類選考します。

【応募締切】

平成13年4月27日(金)

【決定通知】

厳選なる審査の上、本人に通知します。

【連絡先】

西原町役場 企画財政課

☎(九四五) 四五三三

(内線二二三)

担当者/新垣

介護認定審査会委員 について

平成十三年一月より介護認定審査会委員が十名から十五名に定数増となり、五名の委員へ委嘱状の交付を行いました。新任委員は次の方です。

上原益彦(医師)

宮城嗣善(医師)

田場真由美(看護大学助手)

佐久川政吉(看護大学助手)

宮平 悟(福祉活動専門員)

国家公務員(一種・二種・三種)採用試験

【申込受付期間】

○国家公務員一種

平成13年4月3日(火)～

10日(木)

○国家公務員二種

平成13年4月3日(火)～

11日(木)

○国家公務員三種

平成13年6月20日(水)～

27日(水)

○海上保安学校学生(特別)

平成13年4月12日(木)～

20日(金)

○試験日(1次試験)

○国家公務員一種

平成13年6月10日(日)

お米の表示が変わりました

平成13年4月1日からJAS法が適用されました。

これまでのお米の表示は「食糧庁精米表示基準」によって定められていましたが、平成13年4月1日より適用となったJAS法では、すべての販売業者(消費者に直接販売する生産者も含む)に品質表示基準に基づく表示が義務付けられました。

【お問い合わせ】

那覇食糧事務所計画流通課

☎(八六六) 〇一五六

2001県民フォーラム・イン・中部

【テーマ】

2001年県民フォーラム世界に開かれ平和で安らぎと

活力のある沖縄県づくりに向けて
―沖縄県の将来について考えてみませんか―

【目的】

新たな沖縄振興計画の策定にあたり、地域の声を今後の計画内容に反映させるために開催します。

【日時】平成13年4月18日(水) 14時～16時

【場所】

沖縄市民会館中ホール

【主催】沖縄県

【共催】中部広域市町村圏事務組合

愛の贈り物

西原町人づくり支援の会から、町立小中学校へ各5万円の図書を隔年毎に贈ることになりました。平成十二年度は、西原小、坂田小、西原中の3校に25冊ずつの児童書や図鑑などが渡されました。

○国家公務員二種
平成13年7月1日(日)
○国家公務員三種
平成13年9月2日(日)
○海上保安学校学生(特別)
平成13年5月27日(日)
【受験資格】
試験の区分により異なる為、人事院沖縄事務所(調査課)試験担当
☎(八三四) 八四〇〇までお問い合わせ下さい。
※その他、試験内容に関するお問い合わせは、人事院沖縄事務所(調査課)試験担当
☎(八三四) 八四〇〇
☎(八五四) 〇二〇九まで。

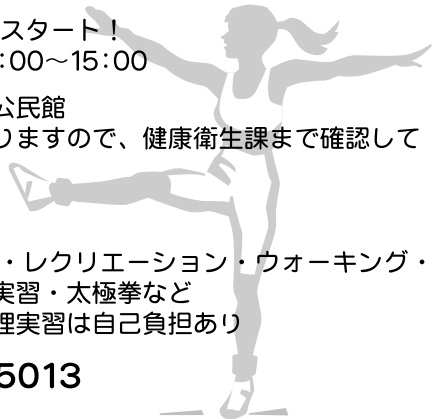
危険物取扱者試験

【試験日時】
平成13年6月17日(日)
午前10時開始
【試験種類】
甲種
乙種 第一～第6類
丙種
【試験会場】
沖縄国際大学他
【受験願書受付期間】
平成13年5月7日(月)～5月11日(金)
【受験受付場所及びお問い合わせ】
(財)消防試験研究センター
沖縄県支部
那覇市旭町14番地
(自治会館5階)
☎(八六七) 五三三二

はっらっ町民健康教室

「運動はするけどなかなか続かない。」「どんな食事を心がけたらよいのか?」など、健康づくりに関心のある方、ぜひ参加してみませんか!多くの町民のみなさんの参加をお待ちしています。

- 日 時:平成13年4月13日(金)スタート!
毎月第2・4金曜日 13:00～15:00
- 場 所:西原町町民体育館、中央公民館
(プログラムの変更もありますので、健康衛生課まで確認してください)
- 対象者:おおむね60歳未満
- 内 容:ストレッチ・リズム体操・レクリエーション・ウォーキング・水中ウォーキング・調理実習・太極拳など
※水中ウォーキング、調理実習は自己負担あり
- 問合せ:健康衛生課/945-5013



行政相談所を開設

- 【と き】毎週第4火曜日
午前10時～午後4時まで
(12時から1時はお昼休み)
- 【ところ】西原町役場 企画財政課 会議室
※年金や保険などあなたの身近な苦情や要望を受け付けます。総務大臣から委嘱された行政相談委員が相談に応じます。
- 行政相談委員は
城間恒子さんです。

行政相談委員の
城間恒子さん



【連絡先】
(☎945) 6775 (自宅)
(☎945) 4533 (町役場企画財政課)

【総務庁 沖縄行政監察事務所の行政苦情110】
(☎867) 1100 (夜間(17時以降)は、留守番電話)

今年小学校へ入学された 新一年生の皆さんへ!

ご入学おめでとうございます。
みなさんは今日から一年生。小学校のお兄さん、お姉さんたちの仲間入りですね。
新しいランドセルを背負って輝く笑顔には、どこか頼もしさを感じます。
学校では、先生のお話をよく聞いて、新しいお友達もたくさん作って下さいね。
お父さん、お母さん、そしてまわりのみなさんも応援していますよ。
期待と不安で胸をドキドキさせている子供たちを、地域のみなさんもどうか温かく見守っていて下さい。



西原町長 翁長正貞

町内相談機関

総合相談

●日常生活の
あらゆる相談

時間/午後1時～4時
月/一般相談(福祉・高齢者・障害者・介護) 仲松民子
火/一般相談() 小川貞子
水/一般相談() 小川貞子
木/消費者生活・サラン・医療・法律相談 玉那覇良江
金/こども悩み・家庭児童相談 岸本ヨシ子、屋良恵子
問合せ/西原町社会福祉センター内総合相談所 ☎835-8822

教育相談

●不登校生徒及び保護者への支援、助言

月～金 午前8時30分～午後5時
(午後0時～午後1時は昼休み)
町役場水道庁舎2階
問合せ/945-3655(内線510)
相談員/阿嘉安弘、山城直、山田葉子

行政相談

●行政に対しての
苦情や要望

随時 設置場所/自宅・毎月第4火曜日は
西原町役場企画財政課(10時～12時・13
時から～16時) 相談員/945-6775(城
間恒子) 945-4533(西原町企画財政課)

窓口相談

●何でも
相談

第1・第3火曜日(祝祭日の場合、翌
日) 午前8時30分～午後5時 企画財
政課(午後0時～1時昼休み) 問合せ/
945-4533 相談員/玉那覇良江

人権相談

●人権に関
する悩み

随時 相談員/945-2774(新垣佳
宏)・945-0919(外間政弘)・
945-1349(下地郁子)

身体障害者相談

●申請手続き、有
料道路料金の割引

随時 町役場福祉課 問合せ/945-
5311 相談員/946-2617(奥原陽子)
相談員/945-1747(玉那覇俊雄)

知的障害者相談

●家庭における
養育、生活等

随時 相談員/946-4411(安谷屋千恵子)

在宅介護支援センター

●在宅介
護の相談

24時間体制 特別養護老人ホーム守
礼の里 問合せ/945-0023 看護
婦(比嘉瑞美子)

精神障害相談

●精神的
な悩み

月～金午前9時～午後5時 城間医院
問合せ/945-4551 医師/城間政州

町のあらまし

- 町の位置 …… 北緯26°13'19" 東経127°46'3"
- 町の面積 …… 15.32km²
- 町の木 …… ガジマル
- 町の花 …… ブーゲンビリア
- 町花木 …… サワフジ
- 町のホームページアドレス
<http://www.town.nishihara.okinawa.jp/>



ガジマル



ブーゲンビリア



サワフジ

基本目標

- 人間性豊かな創造のまち
- 明るく住みよい平和なまち
- 豊かで活力のあるまち

3大ビジョン

1. ぬくもりのあるまち構想
2. 生涯学習のまち構想
3. 豊かな自然を生かしたまち構想

町民憲章

わたしたちは、西原町民としての自覚と誇りをもち、「人間性豊かな文教のまち」をめざし、恵まれた地理的条件を生かし、明るく住みよい平和なまちをつくるため、この憲章を定めます。

1. わたしたちは、緑を豊かにし、美しいまちをつくりましょう。
1. わたしたちは、つねに学び、文化の高いまちをつくりましょう。
1. わたしたちは、だれにも親切にし、互いに助け合いましょう。
1. わたしたちは、勤労感謝の心を養い、物を大切にしましょう。
1. わたしたちは、スポーツに親しみ、健康の増進につとめましょう。
1. わたしたちは、時間を守り、すすんであいさつをしましょう。

2年間の学習成果を披露！

日本語スピーチ大会

先月10日に中央公民館において日本語スピーチ大会が開催されました。

日本語教室で学ぶ町在住外国人が昨年度からの学習成果の発表と日本語教育事業（文化庁委嘱）の締めくくりとして開催されたもので、テーマは自由に発表が行われました。

日本に来てから苦労した事やカルチャーショック、日々の生活の様子などが語られました。

これからも学習頑張ってください。



子ども放送局4月の番組案内

中央公民館視聴覚室（10:30～15:30）見学自由



4月 14日（土） 28日（土）

テーマ ～相撲（すもう）～（再放送） ～未定～

10:30 ●小さな力士 舞の痛痛快快土俵人生	10:30 ●夢スタジオ1030
12:00 ●わたし達の町の環境を 調べよう	12:00 ●輝く子どもたち
12:30 ●子どもとしゃかん	12:30 ●子どもとしゃかん
12:45 ●THE MAKING	12:45 ●THE MAKING
13:00 ●研究室におじゃまします	13:00 ●中はどうなっているの
13:30 ●紙相撲で 「はっけよい のこった」	13:30 ●チャレンジ教室

BASKETBALL 大会の結果

第13回海邦国体記念バスケットボール大会

一般の部	優勝	2 位	3 位	
男子Aグループ	泡瀬クラブA	豊見城スポーツA	SUSHI BAR FUJI、カヌチャクラブ	
男子Bグループ	味酢処わがまま	BIG MACS	フリーダム、DMクラブ	
女 子	村さ来	宜野座北部病院	ABBESS、沖縄国際大学	
中学生大会	優勝	2 位	3 位	4 位
男子の部	琉球大学付属中	中城中	西原中	西原東中
女子の部	中城中	西原中	琉球大学付属中	西原東中

※一般の部は3月4・11・18日（日）、
中学生の部は3月20日（火）に開催



☆印は児童館事業

事業名	日時	場所	連絡先	備考
町民体育館無料開放日	4月 1日（日）10:00	町民体育館	町民体育館	945-8095
チャレンジ大会	2日（月）14:00	西原児童館	西原児童館	945-4393
第11回中部地区学童軟式野球大会	8日（日）9:00	西原中・西原東中・西原南小	事務局（大井）	
第11回中部地区学童軟式野球大会	14日（土）9:00	坂小・東小・南小	事務局（大井）	
トランポリン	14日（土）15:00	西原東児童館	西原東児童館	944-0976
町婦人連合会総会	14日（土）19:00	中央公民館	婦人連合会	945-6862
けん玉認定会	16日（月）16:00	西原児童館	西原児童館	945-4393
母親クラブ総会	20日（金）10:30	西原東児童館	西原東児童館	944-0976
第17回沖縄小林流空手選手権大会	22日（日）9:00	町民体育館	事務局（宮平）	832-2312
トランポリン	24日（火）16:00	西原東児童館	西原東児童館	944-0976
H13年度母親クラブ総会	26日（木）10:00	西原児童館	西原児童館	945-4393
こいのぼり掲揚式	27（金）9:30・14:30	西原児童館	西原児童館	945-4393
鯉のぼり掲揚式	27日（金）10:00	西原東児童館	西原東児童館	944-0976
第4回チャリティー展示即売会	27～29日（金～日）	中央公民館	西原町人づくり支援の会	945-6731
わははクラブ開級式	28日（土）14:00	西原東児童館	西原東児童館	944-0976
第64回那覇南部地区高校生バスケット大会	29日（日）9:00	町民体育館	事務局（金城）	
町民体育館無料開放日	5月 6日（日）10:00	町民体育館	町民体育館	945-8095

竹笛サークル会員募集 活動日：第1・2・3木曜日中央公民館 20:00～21:00 初心者歓迎！

生涯学習だより

第60号 平成13年4月1日

西原町教育委員会
生涯学習課
TEL 098-945-3655



学級・講座案内

学級・講座名	内 容	対 象	期 間	時間	定員	申込期間	備 考	連絡先
親子自然体験 キャンプ	親子でキャンプやホテル の観察や動植物の観察	親子	5/26・27	13:00 ～翌日午前	40	5/1(火)～	講師 調整中	生涯学習課 945-3655
子どもさんしん 講座	小学生対象のさん しん講座	小3～小6	H13.5/15 ～H14.3/	17:00 ～19:00	40	5/1(火)～ 5/11(金)	講師 調整中	中央公民館 945-3657
子ども琉球舞踊 講座	小学生対象の琉球 舞踊講座	小1～小6	H13.5/15 ～H14.3/	17:00 ～19:00	40	5/1(火)～ 5/11(金)	講師 調整中	
東部消防本部主催事業 ●普通救命講習会		高校生以上	4月14日(土) 9:00～12:00		40	無料 申込要	東部消防本部 警防課	946-9999
琉球大学公開講座 ●親父のための健康サッカー講座 ●カナダをもっと知ろう ●らくらく出産、イキイキ母乳育児		成人 成人 妊産婦	4/8～2/27 5/8・6/9 5/12			申込みは1月前から 無料 5,800円 4,800円	琉球大学 教育学部生涯スポーツ講座 895-8388 総務課生涯学習係 895-8019 医学部学務課厚生係 895-3331	
県立埋蔵文化財センター ●特別企画展 「首里城京の内展 －貿易陶磁からみた大交易時代－」		一般	～5月6日(日)			無料	県立埋蔵文化財センター	835-8752
石川少年自然の家主催事業 ●宿泊学習指導者研修会 ●自然とふれあう親と子のつどい 「ホテルを見よう」		小中学校職員 親子 子ども会	4月28日(土) 5月19日(土) 19:00		80 60		石川少年自然の家	964-3263
玉城少年自然の家主催事業 ●スターウォッチングinたまぐすく		親子	4月27日(金) 18:30		100		玉城少年自然の家	948-1513
県立博物館主催事業 ●体験学習教室 「豆を栽培して豆腐を作ろう」 「さとうきびを栽培して黒糖を作ろう」 ●文化講座 「世界遺産を支えた人々」		小4以上 小4以上 一般	4/28 5/26 7/28 8/4(4回) 4/28 5/26 10/27 12/8(4回) 5月20日(日) 14:00		40 40		県立博物館	884-2243
(財)公園・スポーツ振興協会主催事業 ●健康水泳教室 ●バドミントン教室		中高年 一般	4/25～5/30 10:00 4/25～5/30 10:00		50 30	4/12～19 費用:2,510円 4/12～19 費用:2,510円	公園スポーツ振興協会	932-5114

※プログラムの詳細については、各連絡先にお問い合わせ下さい。

IT講習会のお知らせ

IT講習会を5月から中央公民館、学校(坂田小、西原東小予定)を中心に毎月開催していく予定です。成人なら誰でも受講できます。内容もパソコンを触った事のない初心者を対象としていますので夫婦で、友達と楽しみながら受講してください。詳細につきましては近日中にチラシを配布しますので宜しくお願いします。

また、IT講習会 において、パソコン初心者に対しての指導・講師の補助をおこなうボランティアを募集しております。





ソフトボールで実年・壮年チームが 西日本大会へ出場

ソフトボールの西原クラブが2月11,17日に行われた第12回春季実年(50代)ソフトボール大会で初出場で準優勝に輝き、9月に行なわれる西日本大会への出場権を獲得しました。

また、3月4,10日に行なわれた第26回春季壮年(40代)ソフトボール大会では、みごと優勝に輝き5月に行なわれる西日本大会への出場権を獲得しました。

尚、西原クラブでは50代,60代の選手を募集しています。
お問い合わせTEL945-6136親泊さん

児童館まつりを開催 西原東児童館

2月24日、西原東児童館において児童館まつりが開催されました。

午前中にはこどもフリーマーケットが行なわれ、母親クラブのみなさんがつくった、おいしいむしパンやゼリーに子ども達は舌鼓を打っていました。

午後からは県立芸術大学のみなさんによる「ゆかいな演奏会」やお話しサークルの「人形劇」、こども映画祭が行なわれ、集まった多数の子どもたちも楽しい演奏や人形劇に満足していました。



2列目の右端が講師の徳野さんと楠原さん

うまくなりたい気持ちを大切に！ バレーボール教室

町バレーボール競技の発展と競技力向上を目的に平成12年度バレーボール教室(主催:西原町バレーボール協会)が、3月14日午後、西原町民体育館で行なわれ、町内の小学生から高校生まで100人以上が参加しました。

今回の講師はビーチバレー・オリンピック強化指定選手の徳野涼子さんと楠原千秋さんです。

教室ではサーブやレシーブなど基本的なプレーについて講師から指導があったあと、試合形式でフォーメーションなどをチェックしました。

講師の二人は「うまくなりたいたいという情熱をもちつけて元気や声を出して練習することが大切です」とアドバイスしていました。

西原ライオンズクラブが 創立20周年記念植樹

西原ライオンズクラブ(会長・大城 修)が20周年の記念事業として植樹祭を2月24日午前、西原町役場中庭で行ないました。

西原ライオンズクラブは西原町や与那原町、中城村の三町村で構成され、今年がライオンズクラブ国際協会に認定されて20周年となったのを記念に、三町村をまわって植樹を行ないました。

植樹を行なった後、大城会長は「21世紀は心の時代。これからも奉仕を大切にする心を育んでいきたい」とあいさつし、翁長町長は「日頃からチャリティーや献血など地域に密着した活動をしていただき感謝します」とお祝いのことばを述べました。



坂田小中国語クラブが池田苑を慰問

坂田小学校の4年生から6年生で構成する中国語クラブ(講師:川木アリス)のみなさんが、2月21日午後、老人保健施設池田苑のお年よりたちを慰問し、歌や踊り、手品を披露しました。

中国語で自己紹介した子どもたちは、お年よりたちにプレゼントを手渡ししながら「おじいちゃん、おばあちゃんたちにふれあえてとてもよかった」と感想を話しました。お年寄りたちは「なつかしい歌を聴いて若い頃を思い出した。また来てほしい」と子どもたちに感謝していました。